

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113110102782	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	電気通信大学	設置区分	国立	事業計画名	電気通信大学「デザイン思考・データサイエンスプログラム（D×2（デンツー）プログラム）」の設置
学校種	大学	都道府県	東京都		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。  
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。  
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>10人、<学士>15人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム設置（入学定員15名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）設置（入学定員10名） 6月 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム 収容定員増に係る意見伺い 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 本プログラムを学域（学部）及び大学院博士前期課程に設置 ②4月 実務家教員を招へい ③8月 新棟設計のための事前計画・調査及び申請に伴う行政協議（東京都、調布市、調布消防署等） 地区計画変更のための行政協議 ④10月 クロアポ教員2名を配置 ⑤10月 実務家教員を招へい ⑥10月 外国人実務家教員2名を招へい ⑦11月 女子特別選抜を実施（以後、毎年度実施する） 【教員数】11名（専任教員：9名、クロアポ教員：2名）	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>10人、<学士>15人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム設置（定員15名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）設置（定員10名） 6月 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム 収容定員増に係る意見伺い 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 本プログラムを学域（学部）及び大学院博士前期課程に設置 ②4月 実務家教員を招へい ③3月 新棟建設のための調査、設計、申請に伴う行政協議（東京都、調布市、調布消防署等） ④3月時点 クロアポ教員の採用なし ⑤令和6年5月 実務家教員1名を採用予定 ⑥4月に大手IT企業から世界的に著名なデータサイエンティスト1名を招へいした。 3月にデータサイエンス分野における研究の世界的第一人者1名を他大学から招へいした。 ⑦11月 女子特別選抜を実施 【教員数】7名（専任教員：7名、クロアポ教員：0名）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム30名増員（入学定員45名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）10名増員（入学定員20名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①クロアポ教員を2名から5名に増強し、カリキュラムを実施する。 ②新棟建設に伴うアドバイザー業務実施 ③AI計算機環境整備のため設備を導入する。 ④4月 コーディネーター（学内担当）を採用 ⑤4月 コーディネーター（海外担当）を採用 【教員数】14名（専任教員：9名、クロアポ教員：5名）	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム30名増員（入学定員45名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）10名増員（入学定員20名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 特任教員（コーディネーター 海外）1名を採用（R7.1.30承認） ②新棟建設に伴うアドバイザー業務を実施した。（R7.1.30承認） ③4月 コーディネーター（非常勤）1名を採用（R7.1.30承認） ④5月 実務家教員1名を採用（R7.1.30承認） ⑤AI計算機環境整備のため設備を導入した。（R6.7.17承認） ⑥令和5年度までの体制に上記①から④を増強し、カリキュラムを実施した。（R7.1.30承認） 【教員数】7名（専任教員：7名、クロアポ教員：0名）（R7.1.30承認）	R6年度自己評価
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>2人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置（入学定員2名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 後期課程の受入開始 ②令和6年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 ③新棟設計・建設工事（初年度）実施 ④AI計算機環境整備のため設備を導入する。 【教員数】14名（専任教員：9名、クロアポ教員：5名）		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）3名増員（入学定員5名） ①4月 クロアポ教員を5名から6名に増強し、カリキュラムを実施する。 ②新棟設計・建設工事（2年目）実施 【教員数】15名（専任教員：9名、クロアポ教員：6名（1名増員））		R8年度自己評価
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>20人、<学士>45人 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①令和8年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 ②新棟建設完了 【教員数】15名（専任教員：9名、クロアポ教員：6名）		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>45人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）25名増員（入学定員45名） ①4月 クロアポ教員を6名から7名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】16名（専任教員：9名、クロアポ教員：7名（1名増員））		R10年度自己評価
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>45人、<学士>45人 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①令和10年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 【教員数】16名（専任教員：9名、クロアポ教員：7名）		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）5名増員（入学定員10名） ①4月 クロアポ教員を7名から8名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】17名（専任教員：9名、クロアポ教員：8名（1名増員））		R12年度自己評価
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 ①令和12年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 【教員数】17名（専任教員：9名、クロアポ教員：8名）		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 ①クロアポ教員を8名から10名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】19名（専任教員：9名、クロアポ教員：10名（2名増員））		R14年度自己評価



フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	電気通信大学
-------------	-------	-----	--------

## 2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックして下さい。

- i) 学生募集中止中の大学
- |      |  |
|------|--|
| 該当無し | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------|--|
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の詳細の結果、「不適合」の判定を受けた大学
- |      |  |
|------|--|
| 該当無し | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------|--|
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- |      |  |
|------|--|
| 該当無し | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------|--|
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- |      |  |
|------|--|
| 該当無し | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------|--|
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文科科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- |      |  |
|------|--|
| 該当無し | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------|--|

## 3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックして下さい。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務省及び収容定員充足率を測定するために定められた要件を満たすことと確認された大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。
- |          |  |
|----------|--|
| 確認を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
| 対象に該当しない | <input type="checkbox"/> チェック            |
- ② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育がキョウムの編成及び大学での学修に必要な資・能を育成する大学卒業後意向に基づき、そのための体制を整備する計画となっていること。（その際、国際的な資格保証の仕組みを活用するなど出口における資格保証も十分留意することが重要。）
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の要修（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の要修に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）、（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の履修人員数を明記する計画であること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑧ 教育の質向上を図る目的の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位情報分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特許校）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位情報分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むもの限る。）を有する大学とする。）
- |                     |  |
|---------------------|--|
| 既設の情報系分野に係る研究科等を有する | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|---------------------|--|
- ⑨ 構構による事業計画の策定があった日から2年を経過する日を含む年度末日まで、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院院士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで「他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。
- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|-----------------------|--|
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。
- |            |  |
|------------|--|
| 計画通りに進んでいる | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|------------|--|
- ⑬ 文部科学省が実施する教育・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主要な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。
- |                     |  |
|---------------------|--|
| 認定を受けている、又は対象に該当しない | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
| 認定を受ける計画が進んでいる      | <input type="checkbox"/> チェック            |
- ⑭ 文部科学大臣が国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。
- |                    |  |
|--------------------|--|
| 認定を受けておらず申請する意向もない | <input checked="" type="checkbox"/> チェック |
|--------------------|--|

## 4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗が遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合は欄内記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。
- | 取組の計画   | 取組実績、進捗状況  | 課題（理由）とその対応 |
|---|--|-------------|
| <p>本学ではDEFPCにおいて、既に連携企業や自治体コンソーシアムを形成しており、これらの企業等から業務上の課題や実データの提供を受け、分析・モニタリングの教材として活用している（電子市との連携によるごみデータを活用した行政課題解決、東京都との連携による情報セキュリティ対策による都市型産業強電の有効性実証、鉄道会社の連携による工場の鉄道車両整備の効率化等）</p> <p>今後、このコンソーシアムの構成企業等を更に拡大でき、幅広い分野から講師の派遣や研究・インターンシップ受入、実データの提供等を受けるとしている。</p> | <p>DEFPCにおいては、データサイエンスの分析手法を実習で学ぶ「データサイエンス1特論」において、コトヒ株式会社との協力のもと、妊娠・出産・育児に関わる女性向けQA&amp;Aアプリのデータを題材にして社会課題に向けた分析を実施した。また、令和5年度に引き続き、特別講義としてDPCデータの分析も実施した。</p> <p>令和6年度コンソーシアムの新たな参加機関として株式会社QICKYが加わり、令和7年度には新たにキリンホールディング株式会社、株式会社MonotaROO2 が追加予定となっている。今後同コンソーシアムの構成企業等を拡大でき、幅広い分野から講師の派遣や研究・インターンシップ受入、実データの提供等も図っていく。</p> |             |
- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。
- | 申請時の計画  | 取組実績、進捗状況  | 課題（理由）とその対応 |
|---|--|-------------|
| <p>平成29年度から、高校生を対象に高校・大学オープンスタンプでつなぐ教育プログラム（UECスクール）（高大連携推進）を開始しており、本学の教育の強みである「産官学連携（有）実」「プロ」プロジェクト入門の両輪や大学が基礎プログラム学習の先取り学習を推進している。本プログラムの内容についてこれらのスタンプを活用して積極的な高大連携を進めるとしている。</p> <p>令和6年度には、埼玉県教育委員会からの依頼を受け、高校教員向けデータサイエンス基礎教育のe-Learning型学習教材を開発しており、本教材を他校にも広く提供していく予定である。</p> <p>令和5年度からは、埼玉県県立高校と連携し、高校生が本学の研究室で大学のデータサイエンス教育を体験する取組を開始する。</p> | <p>高校・大学オープンスタンプでつなぐことを企画した高校生向け教育プログラム（UECスクール）令和6年度の参加学校数・参加者数は次のとおりである。①理科学習 11校11名、②デジタルコンテント制作 4校44名、③先端学習 基礎プログラム 11校34名、令和6年度は新たに東京都教育委員会との連携により都立高等学校附属中学校及び都立中等教育学校に在籍する3年生を対象とした、データサイエンスの基本を学習し、身近な課題テーマとした探究活動を行う教育プログラム（UECスクール）1校18名の参加を得て実施した。</p> <p>令和6年度コンソーシアムの新たな参加機関としてCafeを3校追加した。このイベントは毎回、大学での学び（実証）と理論、卒業後に向けた新入生向けイベント（Cafe）を3校実施した。このイベントは毎回、大学での学び（実証）と理論系研究者のロールモデルの紹介、施設見学などを通して関係への関心をもたせらることを主とし、気軽に参加してもらいやすい形式としている。参加校はべ3校37名。</p> <p>令和6年度は埼玉県立高校等学校からの依頼を受け「実践データサイエンス」講座、講義を実施。新たに東京都立武蔵高等学校及び信貴県立彦根高等学校から依頼を受け実施した。また、東京都立塩分高等学校は本学大学訪問の際に「データサイエンス」を入門し、講義を実施した。</p> <p>「データサイエンス基礎教育0e-フュニ」型学習教材の件に関しては、学校向けデータサイエンス教育用のオンデマンド教材を講義やe-Learning型コンテンツを推進しようとして進捗を確認している。令和7年度に、兵庫県高等学校教育研究会に参加し、発表を予定している。</p> |             |
- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。
- | 取組の計画   | 取組実績、進捗状況   | 課題（理由）とその対応 |
|---|---|-------------|
| <p>本学では、女子中高生の理工系分野への関心と喚起するための近未来プロジェクトを年に複数回実施するが、従前から女子学生の増加のための取組を行ってきた。本プロジェクトは女性教員・大学院生のロールモデル登壇会、ものづくりワークショップ、3年体験等を開催しているが、定員4名程度のところ毎回定員を大幅に超える層級が、データサイエンス分野に関する関心の高まりを窺っていることから、本プロジェクトにおいても令和6年度の特別演習から新たに定員5名の女子枠入試を実施することとしている。</p> <p>DEFPC7年生の社会人学生が理解しやすい学修環境を整えるため、オンライン授業の積極的な活用を図るほか、留学生的の確保に向けた「留学生プログラムの参加や本学主催によるASEANの各大学、企業等が参加するセミナーの開催等を通して優秀な留学生の確保を推進する。</p> | <p>本学では、女子中高生の理工系分野への進路選択を支援する「匠ガールプロジェクト」に取り組んでいる。本プロジェクトは、昨年度よりさらに規模を拡大して実施した。令和6年度は、7月・8月・12月の3回にわたり、15の研究テーマで3年体験を開催し、中学生98名、高校生176名、計274名の女子中高生が参加した。事後アンケートでは、参加者から高い満足度評価を得ている。また、令和6年7月には、NTT先端技術総合研究所との共催による研究所見学ツアーを実施した。</p> <p>令和6年11月には「デザイン思考・データサイエンスプロジェクト」において女子学生を対象とした学校横断型連携を実施し、定員5名のうち56名が入学を決めた。</p> <p>留学生の確保に向けた取組としては、留学プロジェクト、学外進学支援組4件への参加のほか、員料参加4件、学内イベント3件を実施し、本学の認知度向上および優秀な留学生の獲得に努めた。</p> |             |
- ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。
- | 申請時の計画  | 取組実績、進捗状況  | 課題（理由）とその対応 |
|---|--|-------------|
| <p>デジタル先進国であるアメリカにおいてトップクラスである私立大学との協定を元、教員・学生の交流やオンライン講義を行う計画である。</p> <p>また、東京外国語大学、東京農工大学との共同による大学間の連携を基盤とした文理協働型グローバル人材育成プログラムでは学部生を対象とした「協働共通・専門教育プログラム」を開設するほか、多摩地区の各国立大学や甲斐学院大学などの単位互換に関する協定に基づき、各大学にデータサイエンス科目の提供を行ったほか、これらの本学への履修を更に積極的に推進することとしている。</p> <p>さらに東京都立産業技術高等専門学校とは連携協定を結び、特に情報セキュリティ分野における授業科目の提供や、高専専攻科生の本学研究室へのインターンシップ受入などを行っている。</p> | <p>テラマーク・ロッキード大学との間で令和5年1月に包括協定を締結後、研究交流・学生交流を目的に令和6年11月に学生交流を継続した。令和6年度秋学期は24名の学生がロッキード大学への留学を希望しており、令和7年8月からの留学に向けた準備を進めている。</p> <p>東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の西東京三大学協働共通教育プログラムである「英語で授業を行う科目（英語化科目）」は本学学生1名が、同じ3大学協働基礎ゼミでは本学学生3名が履修した。このほか多摩地区国立5大専攻相互連携及び甲斐学院大学の単位互換制度も利用し、本学では前期に11名13科目、後期に4名4科目の特別修業生受入れを行った。</p> <p>高等専門学校との取組としては、本学で実施した岐阜県専攻生向けサマーキャンプなどのアトリート活動において、本学の学域1年生を対象とする学生実験への導入を見込んで開始した初期ネットを活用した。</p> |             |

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	電気通信大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項 (R6年度)	【留意事項】 当初に計画していた教員の確保に課題が生じている。今後の事業運営に支障がないように、教員の確保に努めること。	10月18日付送付の指摘事項等を受け、当該プログラム教員らを集めた臨時打合せを11月7日に実施した。新規教員採用（令和6年度中に最少1名、最多2名を予定）に加えて、既存教員の兼務形態を増やす方向で教員確保に努めた。





















大学名	電気通信大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	--------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	720	750	750																	
		入学者数	人	737	773	778																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																	
		入学者数	人	0	0																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	720	750	750	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	737	773	778	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.02	1.03	1.04	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	2,944	2,974	3,002																	
		編入学定員	人	32	32	32																	
		在籍者数(D)	人	3,360	3,386	3,441																	
		編入学者数	人	40	32	69																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.14	1.14	1.15																	

4. 外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		3,018,687	4,301,268																	

特記事項

博士課程、修士課程における小区分「その他の学期」の入学定員0は若干名を意味する。
--